

皆んなで選んだ
今月の秀句

処理水と言わせてならぬ汚染水
被爆国耳を疑う署名拒否

遠田亀公子
金石北の山



Photo by H. Watanabe

不思議な写真

この写真、昨年4月
サクラ満開の兼六園横
の道路。例年ここは大
渋滞です。今年は渋滞
が戻っていました。
東京大阪に負けず、
石川県の感染者も過去
最多が続き、病床使用
率は90%に迫る。変異
株も確認された。後手
後手の菅政権はまだ五
輪に固執している。今
年は選挙の年。野党も
動き出した。

コロナ禍中、自民党が固執する核依存は底知れず深い。原発再稼働や改憲に道をつける国民投票法。菅政権が不人気で安倍再登板も囁かれる。被爆国ニッポンの声を高めたい。(周)

「和」川柳社 4 月会報 No. 703

定例会 2021 年 4 月 22 日 (木)

来月例会案内

5月例会
投稿締切
課題「穴」
自由吟
自選句、自解筆もよろしく。

5月27日(木)
24日(月)
3句以内
5句以内

目次	
川柳互選・課題吟「耳」	2
自由吟	3
おたより	5
狂歌	6
川柳連作	7
ほのぼの川柳	8
亀公子の《川柳ひと言》	8
投稿 悪名高きRBG 武田祐一	9
投稿 小林多喜一と七沢温泉 山田和秋	10
戦争前夜抄《27》	11
半藤一利さんのメッセージ	16
編集後記を兼ねて	11

5月の例会は誌上です。

4月の 川柳互選

◆ 点の付け方

推薦句◎…2点、準推薦句○…1点
◎3句以内。○全体の半数以内。

◆ 課題吟「耳」（互選）

一人3句以内吐

（投句15人／14人の互選）

1	コロナ禍で耳さん毎日ありがとう	北の山
1	目の粗い笹耳民の声聞けず	立東爺
1	イヤリングマスク嫌がり付けられず	未知子
1	耳よりなニュースもない政治ボケ	広助
1	ワクチンがじきに打てるか空耳な	一角
2	訪米土産に原爆の耳飾り	大峰
2	年金日床や情報聞きに行く	北の山
2	メガネからマスクまでもが世話になる	ダン吉
3	福耳の総理のくせに聴かぬふり	一角
3	何もかも後手後手の国未来なし	ふさこ
4	変異株 耳目を集め有頂天	未知子
4	底浅い耳学問をしゃあしゃあと	ダン吉

4	放射能恐れる声がその耳に	一角
5	耳栓をしても聞こえる怨み節	尊柳
5	国民の声空耳か強行論	徹乗
6	聞く耳は風評ばかりにむけてます	ふさこ
6	世界中耳目集めるこの乱世	尊柳
5	答弁も右から左の通過儀礼	徹乗
5	耳ふさぎ世論無視する菅政権	高坊
5	戦力外コロナが耳を狙い撃ち	亀公子
6	耳打ちしながら親子でする汚職	大峰
6	時どきは持て余してる地獄耳	ダン吉
6	都合よいことだけ学ぶ耳学問	立東爺
7	耳の穴広げてよく聞け 民の声	高坊
7	核国の廃炉時代に耳栓し	広助
7	文春砲小耳が大きく化けて出る	白眞弓
8	空耳も難聴も在りの国会審議	白眞弓
8	パンの耳かじってその目を耐え凌ぐ	高坊
8	ニンゲンの耳には辛い銃声音	亀公子
9	文春砲的に張り付く壁の耳	白眞弓
9	座に就くと耳を貸さない独裁者	尊柳

11 民の声耳栓をして聴いたふり
 13 みなさんの声を聞く耳選挙用
 14 耳の痛い学術会議を踏み潰す
 15 聞きたくない事は聞こえぬ便利耳
 16 権力を握ると耳が遠くなる
 16 被爆国耳を疑う署名拒否

広助
ふさこ
徹乗
立東爺
亀公子
北の山

◆自由吟 (五選)

一人 5句以内吐

(投句15人/14人の互選)

1 なぜ拡大三度目宣言原因は
 1 女とは嫁にいくまで上本音
 1 図書履歴明け渡せと館に立ち
 1 会見わずかに貫録営総理
 1 公園は爛漫捨て猫が二匹
 1 嫁にいつてなおがんばった女たち
 コロナ禍の街にくじけずアンケート
 言えないか五輪中止の下心
 ロヒンギャがいいとジョッキがキリン拒否

広助
一角
馬頭琴
ひろみ
ダン吉
一角
一角
広助
白真弓

1 ワクチンの不足予定を立てられず
 2 大阪はひどいもんだが姉案じ
 2 面会はオンライン嫌と涙す
 2 責任を押し付け合ってるバツハ菅
 2 産声は輪廻巡りの迸り ほとばし
 2 事態宣言五輪済んだら考える
 3 GOTOの付けへ未だに悩まされ
 3 無点滴聴く耳持たず壁の雨
 3 女性部でジェンダー語る男です
 3 子ども庁いらぬ給食ただにして
 3 次々とコロナの波が異変株
 3 コロナ危機に乗じて国政牛耳る輩
 3 二階氏の発言は本音 五輪中止
 3 輪廻転生あとはゆくり迎え待ち
 4 予想通り経済優先第四波
 4 聖火行くコロナ町を引きずって
 4 拉致のこと聞きたくないと言う総理
 5 永田町広辞苑の改定中
 5 喰い倒れ出口でコロナ待っている
 5 お国こそマナーを守れ汚染水

尊柳
一角
ひろみ
徹乗
立東爺
ダン吉
馬頭琴
一角
徹乗
広助
未知子
ひろみ
未知子
未知子
大峰
ダン吉
白真弓
大峰
北の山

5	再選へバイデン詣で急ぐ首相	尊柳	8	核の傘国旗に一つ星のシミ	亀公子
5	ウイルスの進化に社会追いつかず	徹乗	8	国益を御旗に煽る二枚舌	亀公子
5	聖火騒いでコロナ四波押し上げる	大峰	9	列島をすっぽりマスクしてやろう	ダン吉
6	変異種禍それでも経済優先か	未知子	9	コロナ禍に後手後手政治今や人災	北の山
6	大騒ぎ後可愛く寝てる認知症	ひろみ	9	同性婚私に訊けと憲法君	白眞弓
6	本当は三密に暮らしたい心	大峰	9	政策が場当たりのな危機対応	広助
6	誌上句会督促状のように来る	ダン吉	9	海のプラ胃袋目指してまっしぐら	馬頭琴
7	厄介物海へポイ捨て知らん顔	北の山	9	責任は他人に取らす出世道	立東爺
7	聞こえよい日米同盟墓穴掘る	広助	10	妖怪が指揮棒を振る大本営	亀公子
7	焼け石に水がコロナの決算書	亀公子	10	五つの輪スガの首をも徐々に締め	白眞弓
7	白痴化の蔓延大国我が日本	高坊	10	犠牲者の土台でつくる基地工事	高坊
7	もう末期汚れた水をうみに捨て	高坊	11	掛け声の先に地雷が待つGOTO	立東爺
8	広島市小さな声が地鳴り化す	白眞弓	11	そここのけよ復興ダシに五輪が走る	馬頭琴
8	ばらまくよりチウム水と見舞金	徹乗	13	国難が棲みつく官邸腐敗臭	立東爺
8	松山の快拳列島熱くする	尊柳	13	失策を変異のせいにするずるさ	徹乗
8	早すぎる解除を狙う変異株	尊柳	17	処理水と言わせてならぬ汚染水	亀公子
8	デジタル庁ホクロの数まで写し取り	大峰			
8	聞く人がいないホールの音楽隊	立東爺	◆お詫び	編集作業で日下宏さんの投句が別フォルダーに消え、選句する資料に掲載出来ませんでした	
8	へばりつきネットに心を吸い取られ	馬頭琴			

た。申し訳ありませんでした。以下に目下さんの句を紹介します。

◆目下宏さんより（札幌市）

課題『耳』

文春砲 壁に耳あり カメラ付き

菅総理 馬耳東風の コロナ後手

コロナ禍でこの二週間 耳にタコ

自由句

マイナバー ポイント付加し 普及アップ

汚染水 うすめても量は 海へ捨て

新冷戦「わが軍」 出動 現実へ

松山氏 ゴルフメジャーで 世界一

おたより

◆おたより 坂本ふさこさんより

プチコンサート、八十年前の映画、落語家、出世物語談とか、先週、今週は大忙しでした。

でも動けるうちにと送迎のわがままを通して参加

して来ました。出るのは涙ばかりでした。自分だけの幸せに対して妹や家族に感謝やら申し訳ないやらだね。

◆おたより 岩佐ダン吉さんより（大阪）

岸和田市・秋の文化祭参加の「70回市民川柳大会 日時や会場も決まりましたが、府の感染の広がりではとても……。役員会でも思案の末に結局は「誌上大会」になりました。考えてみると他の文芸、舞踏や書道、演劇…、誌上でもやれる川柳の強みに少しかけ安堵の思いです。予告のあった会場での句会も1262人（大阪5/1）、次々と「誌上に変更」の連絡が…。会場との交渉、諸準備、体制、さあ、の時での変更は手配、連絡だけでなく仲間の意欲や士気まで影響してくる一大事。

もうこうなると好転への希望を観測はやめ、今の事態が常態と考えよう。むしろ「誌上」のやれる川柳文芸の強み、しぶとさを誇っていいこうと。誌上のあり方の再検討をこれから…。

◆思うこと 岩原一角（金沢）

手元にある「川柳人誌」No.955を開いて、石川川柳さんの「自分史に書けない母の貧しき手」という句に引き付けられました。

石川さんのお母様がどういう境遇かは存じませんが、わが母に照らすと高小卒の数年で結婚しても祝言をあげただけで足入れ婚で大連に行き、女兒を産んだのが一九四五年八月十七日。もう偽りの満州国は崩壊し、家族がちりぢりばらになっ
てしまいました。母は私にとつては姉であるその子連れて佐世保に引き揚げました。

やがてその娘とも引き裂かれ、母は私の亡き父と再婚し今日に至っています。

昨年秋にようやく私と姉と連絡とれるようになりましたが、コロナでまだ会えません。私は会いたいですし、きっと会えるでしょう。しかし母は自分の貧しい手を見ているだけです。九十五歳では会いに行く気力もないのです。そして私が姉の消息を伝えるまでひとり自分を責めていたのです。

これ私の上の世代ではごろごろしてる話です。しかしちよつと下の方には理解しづらい話です。川柳も同じ、上の世代の方の句はごろごろしている戦禍を前提にしておられます。しかしそれでは五十代六十代の方の理解できる句にはならないと思うのです。

狂歌

◆狂歌 坂本ふさこ（金沢）

・原発を利用するだけ後始末なし海へ流すはあまりの仕打ち

・原発の恐怖は体験すみなのに何故原発にぶら下がる
決めたことすぐぶつぷつでひっくり返す高齢議員に御用心

・若人に恐怖を残す核廃棄物並ぶ塔に人住めず

・OBの死亡知らされ胸うづく幸せだったかレントゲン技士

◆狂歌 貞行（東京）

・ 自助にてはならえかねるわが命いま花咲けるは
公助なりしか
 || 新型コロナナウイルス

・ うすく濃く日ごと夜ごとの接触のみな感染と見え
わたるかな
 || 後期高齢者

・ つゆだにももらさじと見るパソコンの師のおわす
らむ遙けき彼方
 || 大学生

・ 有りてだにおぼつかなさの我が暮らし契り消えな
ん後のつらさよ
 || 非正規労働者

・ 株高に喜びするもコロナ禍の社会の疲弊行く末思ふ

ガースー コースケ

・ その昔弱きをいじる菅を公助さんがたしなめたとき
 || 投資家

|| 日本昔話

貞行さんは、日本科学者会議・電気通信研究所分会
の方。「和」を知って、先日手紙をいただきました。

川柳連作

◆川柳連作 白真弓（千葉）

・ 狼とサソリ牙剥くときは過ぎ

・ 赤軍の轍は踏まずと個の自立

東アジア反日武装戦線の映画「狼をさがして」
を観て…。

武装戦線など、私には赤軍との違いが判らなかつたのですが、この映画を観て、彼らの行動は肯定はできないけれど、気持ちは理解できなくもないと思ったのでした…。

◆川柳連作「不夜城」 遠田 亀公子

不夜城の裏に蓑虫飢えている

不夜城の密に群がるドブネズミ

不夜城の汚物が臭う夢の島

不夜城に棲む毒クモが吐く金糸

不夜城に競い合つてるセレブ犬

春ひさぐ蝶が手を引く新天地

靖国を根城にカラス啼き騒ぐ

ゴミ箱を漁る不況禍のゴキブリとなる

宇宙から見る不夜城は蛾の墓場

時限爆弾の上に眠らぬ蟻の都会

亀公子の《川柳ひと言》

私は何年か前から「川柳連作」というやり方を取っている。もともとは詩を書いていたのであるが、書けなくなつたのを境に川柳で自己表現をこころみたものの何故か不満を感じた。

一句の中に自分の思想や思い描く世界が、川柳を始めた頃は上手く表現出来なかつたからだ。そこで鶴彬が死ぬ4年前から集中的に実践した「川柳連作」という方法に、解決の道があるのではないかと思いついた。鶴彬の評論を読み返してみると、彼は完膚なきまでに「川柳連作」の意義を私に説き明かしてくれていた。彼によれば定型律川柳はその内から突き破るものによって自由律川柳を産みだす必然性を持っているという。しかし鶴彬が最後に読んだ句は定型律川柳だった事を忘れてはならない。彼は最終的には定型律川柳が川柳の行き着く先だと言う事をも証明してくれたのである。

ほのぼのの川柳

試合では勝てて嬉しい我が子達

神田 鯛

生意気になつては来てるが可愛かな

神田 鯛

妄想に負けてたまるか我が心

神田 鯛

梅・桜・躑躅^{つづじ}すぐに台風追いかける

東 爺

太平洋2号数えるタイフーン

東 爺

悪名高きR B G

ルース・ベルダー・ギングバーゲ



武田 祐一（徳願寺）

前回、大河ドラマでの足利尊氏の再評価のお話がありました。尊氏は、『太平記』で南朝 後醍醐天皇、楠木正成に対して敵役（かたきやく）として書かれ、戦前教育でも忠君報国の手本として一番人気の楠木正成と比べられ、再評価の動きも最近のことでした。同様に中国の『三国志』でも、劉備、関羽、張飛、孔明に対しての敵役として曹操が書かれています。どうしても尊氏と曹操は悪役になります。

昔、息子が『三国志』のテレビゲームで「呂布強い」と叫んでいました。北瀧鎌三の『三国志』を読むと、曹操も呂布も格好いい、魅力的な男として描かれています。

歌舞伎などに出てくる平家の武将景清（かげきよ）は別名悪七兵衛と呼ばれます。源氏におそれられた超人的な強さに対して悪の字がつけられます。今で例えるならば、大リーグで二刀流で活躍する OHTANISHAN でしょう。悪とは超人的な強さという意味です。

二月に E テレでドキュメンタリー『RBG 最強の 55 才』を視聴しました。RBG とは、ルース・ベルダー・ギングバーグ アメリカ連邦最高裁判所判事（女性）、称号が notorious トリアス 悪名高き。ここで使われる最も強いという意味をこめて最強のという訳にしたのでしよう。

ギングバーグさんの言葉「社会は小さな声にも大きな声と同じくらい耳を傾けなければならぬ。私はこの言葉を心に刻んで判事の職務を全う

します」ギングバーグさんの強さは、少数派の意見を聞き、実態を知り、多数派に対しても憶せず立ち向かう気骨を表しているのでしょう。



小林多喜二と七沢温泉

たんぽぽ舎ボランティア 山田 和秋（鎌倉）

去る 1 月 28 日鎌田慧さん講演会の締め挨拶で私が触れた小林多喜二の話が反響を呼んだようで、少し詳しくお話しします。

私は学生時代の卒業論文でプロレタリア文学を選択、その原点は小林多喜二にあつて、多喜二への憧憬から文学、そして学生運動の世界へ進みました。

そして、その延長線上に現在があり、反原発運動に邁進しています。

さて、多喜二が七沢温泉に数ヶ月滞在していたことが、最近判明しました。2003 年 3 月、多喜二研究家の ^{かきさき} 蠣崎澄子さんが発見したドラマのような話です。多喜二は治安維持法で起訴され、酷い拷問の末 1931 年 1 月 22 日豊多摩刑務所から保釈出獄、

その傷を癒すため、支援者の手引きで密かに七沢温泉に滞在していたのです。

2003年3月、七沢温泉福元館に突然電話がかかってきて「多喜二が泊まっていたのは福元館ではないですか」に、宿の女将はつい「はいそうです」と言ってしまったが、女将の喜代子さんは昭和23年嫁に来た際、先代の女将やエさんから「小林多喜二をかくまって、離れに泊めたことを口外しないように」と強く口止めされていました。以来実に54年間、多喜二をかくまっていたことをただ一人心に秘めていたのです。

蠣崎さんの電話があったことから、喜代子さんは意を決して公表に踏み切ったのです。

更に分かったことは、明治5～15年の七沢村一帯は自由民権運動のメッカであり、湯治場を開いていた曾祖父は運動家でもあったことなどが幸いし、代々保存されたのかもしれない。七沢温泉に滞在中、多喜二は「オルグ」や文芸評論を主筆で講義もしたようです。学校の教員に支援者がい

たらしいです。

当時、女将やエさんは多喜二の首筋から背中にかけて拷問の傷跡を見て、彼岸花の根をすりおろし、卵、小麦酢を混ぜて湿布薬を作り、張り替えてあげていたという。官憲に見つかれば商売はおろか、命がけの行動でした。

福元館は七沢温泉でも最古の宿と言われ、江戸時代から大山詣でや湯治客が訪れていたようです。

多喜二が七沢温泉を離れて、再び闘いの場にもどり、官憲に捕まるまでのいきさつは今井正監督映画「小林多喜二」に詳しい。

その後、東京築地署で拷問の末、1933年2月20日29歳の若さで虐殺されました。

私自身、虐殺の模様は通夜の席に立会ったという今は亡き作家・貴司山治さんから伺ったことがあります。全身打撲の無惨な姿だったそうです。

福元館へは、東京から車に乗れば1時間30分ほどで行けます。私は友人を案内、既に3度訪れま

した。離れの部屋はリニューアルされたというが、保存状態もよく、多喜二の着ていた丹前などあり、80年以上前とはとても思えず、その都度タイムスリップしてしまいます。

現在の主人から鍵をお借りすれば、誰でも部屋に入り、見学できます。

旅館に宿泊もできますが、私は日帰り入浴（1000円）で多喜二と同じようにゆったり温泉につかり、気持ちの良い時間を過ごしています。ついでに、宿のご主人から聞いた話、多喜二は湯のなかで、ブラームスを口ずさんでいたそうです。多喜二は闘いの合間に、クラシック音楽を好んでいたのですね。ロマンを感じます。

このような話が、80年も受け継がれているとは、多喜二が聞いたらどう思うだろうか。（了）

連載

戦争前夜抄

27

周立東爺

半藤一利さん

日本人へ最期のメッセージ

半藤一利さんが2月に亡くなった。（会報700号に計報）。『サンデー毎日』（2021/2/28）で、夫人の半藤末利子さんが最晩年の様子を綴っている。

病床で語った日本人への最期のメッセージ
「日本人は悪くないんだよ。墨子を読みなさい」

半藤末利子さんの手記より

朝、目覚めると8時半だった。隣を見ると夫は例の如くに口を開けたまま、すやすやと眠っている。

「かったるいなー」とため息が出るが、自分を奮い立たせるように服を着替えて、「今日も一日戦いだぞ！」と階下に降りた。

冷や飯をレンジで温めて卵をかけ、醤油をたらして口にかき込む。熱い煎茶をゆつくりと啜る。s、そろそろ

開始しようか。と洗濯機をまわしたり、昨夜ちらかしたものを片づけてから、2階に上がった。

夫の顔を入口から見ると、まだぐっすりと眠っているようである。どうやらもう一息つけそうだ、とベッドの端に座った途端、階下で「こんにちは」という声がして娘が階段を上がってきた。

娘は、「まだ寝てるの?」と言って、私がおしめを替えようとすると、「私がします」と言ってくれた。正直助かる。ありがたい。私は実母を介護していたが、その時から今まで40年以上、週1で働いてくれていたお手伝いさんも、今重病で入院しているのである。

「えっ」

2人とも飛び上がりそうになるほど動転した。

「早く電話してっ! 119番」

娘が怒鳴っている。私はおろおろしながら、何とか119番に電話をかけた。娘は夫に股がって、必死で人工呼吸をしている。

私は電話に向かって、言葉を発した。

「息が止まってしまいました」

「蘇生させたいですか?」

「当然です」

大声で答えると、ものの3分ぐらいで3人の救急隊

員さんが人工呼吸器を持って現れ、すぐさま1人の人がベッドに駆け上がり機械を使って全身の力を込めてマッサージしてくれている。3人が交代しながら、かなり長時間やってくれたが、そして下半身はまだ温かいのに、呼吸は戻らなかった。

「御愁傷様でした」

救急隊員に頭を下げられた。

「ありがとうございました」

私たち2人も深々と頭を下げた。

救急隊員が去ったあと、娘と2人でしっかりと抱き合って大声で泣いた。妙な表現になるが、何かドデカイことを成しとげた直後のような興奮に、2人とも包まれているようであった。そうなくてもまだ私自身は夫が死んだと実感できずにいた。

5日前まで夫は歩いてトイレに行き、用を足していたというのに……。勿論私が彼の後に立って両手で腰の後ろを押すように支えてはいるのだけれど。

暮れの29日頃から急に夫の体から力がなくなっていた。正月に入っても1週間ぐらいいは頑張っていたのに、とうとう立てなくなってしまった。食欲も落ち、あつと言う間に痩せ細った。

そもそもは、令和元年8月に遡るが、夫は大腿骨を

骨折したのである。大酒飲みだが二日酔いは殆んどしたことがない。それが自慢であつたのに、酔つて転んで、骨折したのだ。

救急車で病院に搬送された夫は、最初の手術がうまくいかなかったにもかかわらず、つまり骨がつかなかったのに、しばらくするとリハビリ病院に転院することになった。

リハビリ病院では、夫が「痛い」と何度も訴えていたのに、執刀医に診せるわけでも、レントゲンを撮るでもなく、ただただリハビリを続けさせられた。そして、まったくよくならないのに、25日ぐらいで入院して、退院させられた。

退院してから執刀医に診察を請い、再手術をし、漸く立てるようになり、歩けるようになった。別のリハビリ病院でリハビリをしたが、そこでは妙な異物を飲み込んで、食道を傷つけて大下血するというハプニングがあつた。

まったく夫の入院生活は病魔に憑かれつつ放しである。やつと悪運から解き放たれて、無事に歩けるようになってから、夫は吾が家に戻ってきた。

一年近い入院は彼を徹底的な病院嫌いにさせた。それでも去年の初夏に退院してから1カ月くらいは、リ

ハビリ師に通ってもらつて、リハビリに励んでいた。その頃にはゲラを読んだり もしていて、つかの間のいい時間ではあつた。

が、肝腎の6月は雨降りばかりで外歩きの練習ができなかった。自宅の階段を上ったり下りたりしなさい、と命じたが、先生がいけないとなかなかしない。筋肉が育たないとすべての負担が心臓にかかってくる。

それで年末になって心臓が悲鳴をあげて、急激に病状が悪化したのではないだろうか。

戦争の恐ろしさを 良識ある日本人に語り続けた

夫は自分の死が近いことを予期していたと思う。

「コロナの時代に一つだけいいことがあるとすれば、派手な葬式を離れもやらなくなったことです。どうか私が死んだときも、大げさなことは一切しないでください」と阿度も繰り返し言っていた。

彼は夫としては優等生であつた。あんなに私を大切に愛してくれた人はいない。ほんの4日間だけ、下の世話を私にさせたことを、

「あなたにこんなことをさせるなんて恵つてもみませ

んでした。申し訳ありません。あなたより先に逝ってしまふことも、本当に済みません」

彼は口のきけるときはずっと、私に詫びていた。

亡くなる日の真夜中、明け方だったかもしれない。

「起きてる？」

珍しくも主人の方から声をかけてきた。

「えっ」と飛び起きて、私は夫の枕元にしゃがんだ。

「なに？」

「日本人って皆が悪いと思ってるだろ？」

「うん、私も悪い奴だと思ってるわ」

私がそう答えると、

「日本人は悪くないんだよ」と言う。そして、

「墨子を読みなさい。2500年前の中国の思想家だけど、あの時代に戦争をしてはいけない。と言ってるんだよ。偉いだらう」

そう言つて、また静かに眠りについた。

これは私への遺言であつたのか、それとも私を通して少しでも多くの人に伝えたかったのだろうか。

良識ある日本人に、戦争の恐ろしさを語り続けた彼のベッドサイドテーブルの上には、今でも『墨子よみがえる』（平凡社）という自著が置かれている。（手記終り）

「昭和の精神」を支えた墨子、ほくし

そして末利子夫人

《保阪正康さんが解説されていました。》

半藤一利さんが亡くなったことは、共同通信社の知り合いからの電話で知った。半藤さんとはとは長年のおつき合いをいただいできて、数え切れないほど対談を行ってきたが、最後の仕事は、昭和天皇の侍従だった小林忍の日記を巡つての対話であつた。この件では共に勉強会に参加し、成果が一昨年の春に新書として発表されたのである。半藤さんとは、その後も時々は会っていた。半藤さんが一昨年に転倒して大腿骨骨折した経緯も聞いていたし、リハビリ病院にお見舞いに行つて、つらそうにしている様子も知っている。

訃報を伝えてくれた知り合いは、「NHKで流れたんですが、お亡くなりになった経緯はご存じですか？」と問う。「いや、私は知らない。本当なのか？」

「自宅で倒れたというんですが……」「倒れた？ そんなことはないだろう」

「おかしいですよ。私たちも調べてみます」といったたやりとりをしたのだが、その後もさまざまなメディア

から次々と電話が入った。いずれも「自宅で倒れているところを発見された」というような言葉を使う。

第一報に則してのことであつた。この言葉の持つ無遠慮なニュアンスに、私は何と失礼なのかと苛立った。半藤さんや末利子夫人の闘病生活にまったく思いがいていないではないか。

今回、末利子夫人が直接にこうして手記をお書きになつて、半藤さんが亡くなる状況が明らかになつて、そういう誤解が解けたことを、私たち半藤さんに師事する者は良かったと思う。

半藤さんの最期の重要な言葉が明らかになつたこととあわせて、貴重な手記である。

この稿の中で末利子夫人は、半藤さんが墨子を読むようにと、遺言のように語つていたことを明かしている。このことは自分を通して多くの人に伝えたいのか、といった自問も書かれている。私は中国思想にはあまり詳しくないのだが、対談の折には墨子の名前は何度か聞いたことがあつた。半藤さんは、2011年6月に「墨子よみがえる」（平凡社新書）を刊行している。贈本を受けたが、私は読んでいなかった。今回改めて読んでみて、半藤さんの本意がわかつた。亡くなる日の明け方、半藤さんは末利子夫人に「墨子を読みなさい。

2500年前の、この思想家を自らの中に抱え込むことにより、歴史の見方の中にさらに太い芯を通した。さまざまな学者や作家が描く墨子の思想を紹介しながら、半藤さん自身の言葉で、なぜ自分は墨子を師のように仰ぐかをこの書の中で明かしている。墨子の生きた時代は乱れ切り、為政者は暴利暴政のし放題、庶民は虚無的になり、戦乱が絶えず、墨子が非戦論を説いたのは「あまりにも世が救いがたいほど荒れていたから」だという。その上で半藤さんは書いている。

「墨子は、あの侵略戦争のみならず、骨の髄から戦争そのものを嫌った。如何なる戦争にも正義はない、と説いた。戦争をなくそうと主張した。すでに書いたように、攻めるほうにも守るほうにも戦いして何一つ利するものはない、害あるのみ、と説いた。（略）

治国平天下、ヒューマニズム（兼愛）によって平和を維持して、人々を安穏幸福たらしめよう、それこそが人間のなすべきところ、と説いた「墨子はひたすら奮闘努力しつづけたのである」これが半藤さんの到達した道筋でもあつたのだ。末利子夫人に託した「墨子精神」とは、実はこのことだったのである。そのことに気がつく」と半藤さんの心中には強い求道の精神が定着していたことに気がつく。

（つづく）

編集後記を兼ねて

◆ 石川県は第4波に襲われてい

ます。しかし市民はのんびり。県民性なんでしょう？ けど保守の偉い人が号令かけると一挙に変貌する。これが県民性の恐いところ。▼狂歌を提供された「貞行さん」は日本

科学者会議の中野さん。鶴彬を顕彰する会通信『はばたき』に同封された「和」の会報『戦争前夜抄』などに共感され入会されました。送って戴いた分会の機関誌は社会を多角的に考察され、多くの方で執筆、編集をされておられました。(周)



▼東京の乱 鬼龍さん、「笑撃の柳人」として連日の抗議行動。《冗談じゃない! / 世の中だから / たたかう冗談を!》をシールにして《接待漬》「ふくのかみ」の大作戦を大絶賛大展開中! (大拡散大希望)

「つつじ祭」は中止です。

石川県でのコロナ感染拡大の中、イベントは中止です。よろしく願います。

5月例会ご案内 (毎月第4木曜日)

◆ 例会 5月27日(木) ◆ 投稿×切: 24日(月)

◆ 課題 「穴」 3句以内 ◆ 自由吟: 5句以内

◆ 自選吟、連作、エッセイ、川柳論などもよろしく。

◆ コロナ急速拡大で例会は誌上となります。

● 投稿 FAX (076) 254-0762

● メールアドレスは下段に。

郵送は 下段住所へ。

「和川柳社」会報
会員募集しています!

同人: 4000 円/年
投句/購読: 2000 円/年
★会報の他に、関連資料などもお送りします。

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目 15-30 (3-2) (渡辺 寛)

電話 FAX: 076-254-0762 PC-mail: kananabe@popolo.org

携帯: 090-9445-1302 携帯 mail: kan-wata@i.softbank.jp

振込先: 北國銀行中央市場支店 #191 普通 640 「和川柳社」

発送に協力いただいています。

▼《食育のグリーンノート&土の音工房》《オカリナ制作》・上村彰